

## 認知症介護における回想法

### The reminiscence for dementia care

松本 義明 (Yoshiaki Matsumoto)

指導：加瀬 裕子

#### 1. 序論

人口の高齢化に伴い、認知症高齢者が急増しており認知症対策が急務となっている。現在、認知症の根本的な治療ではなく、薬物療法と非薬物療法が併用されている。非薬物療法の中でも注目されているのが回想法である。回想法とは受容的・共感的態度での傾聴を基本姿勢として、高齢者の回想を意図的に引き出すというものである。

#### 2. 研究目的

回想法による被介護者と介護者への効果を明らかにすることを研究目的とする。また、認知症介護における回想法の活用可能性について検討する。

#### 3. 研究方法

インタビュー調査、介入調査、アンケート調査の3つの調査を実施した。

インタビュー調査は回想法実践経験のある介護職員9人を調査協力者として半構造化インタビューを実施した。質問内容は現在の回想法、回想法の効果、今後の回想法についての3点である。分析方法はデータをコード化して共通の意味を含むものをまとまりごとに類型化した。

介入調査は特別養老人ホーム認知症専用ユニットの人所者を対象にグループ回想法を実施した。平均参加者数は8.4人であった。分析方法は、観察法にもとづくTORS、RORS、自由記述を用いてグループ全体の評価と事例検討を行った。

アンケート調査はインタビュー調査の結果をもとに認知症利用者への介護実践について各15項目、介護業務について15項目の質問紙を作成した。回想法を実践している2つの介護施設の介護職員59人を調査協力者とした。分析方法は回想法経験の有無で差の検定、重回帰分析を行った。

#### 4. 研究結果

インタビュー調査では、回想法による被介護者と介護者への効果として3カテゴリー、11概念を抽出した。【介護者にとっての回想法】のカテゴリーからは、生活史の尊重、社会性発揮の機会、関わり方の工夫、認知症の理解の4概念を抽出した。【被介護者にとっての回想法】のカテゴリーからは、QOLの向上、他者意識、自己意識、BPSDの軽減の4概念を抽出した。【介護者・被介護者相互にとっての回想法】のカテゴリーからは、関係構築、効果的な実践方法、実践上の課題の3概念を抽出した。各概念の関係性について

回想法概念図に示した。(図1)

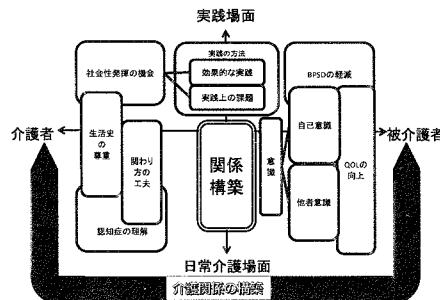


図1 回想法概念図

介入研究では、回想法による被介護者への効果を明らかにした。TORS、RORSの初回介入値と最終介入値で差の検定を行ったところ有意な差はなかったことから、回想法では認知機能や言語機能等は向上するのではなく、日常介護場面ではみられない本来の能力が表出することが明らかになった。

アンケート調査では、回想法による介護者への効果を明らかにした。回想法によって認知症利用者への介護実践の質が向上して、介護業務の自己評価にもつながることが明らかになった。回想法経験の有無に分け、認知症利用者への介護実践と介護業務の関係性をみたところ、業務の達成と能力の発揮・成長において生活史の尊重、仕事上での予測・問題解決において認知症の理解に有効な関連がみられた。(図2)

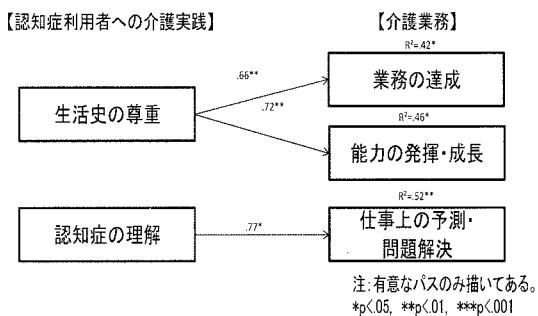


図2 回想法経験有り群の重回帰分析

#### 5. 考察

回想法によって認知症高齢者が本来持っている能力を表出させること、認知症介護の質の向上させること、介護関係の構築につながることから、良質な認知症介護における具体的な実践として有効であることが示された。